

# 総合特別区域評価・調査検討会における評価結果の概要(令和2年度)

## 2. 分野別状況(1)国際戦略総合特区(4/7)

	総合評価 (IとIIとIIIを1:1:2の割合で計算)	I	II	III	総合評価に係る専門家所見(主なもの)
		目標に向けた取組の進捗	支援措置の活用と地域独自の取組の状況	取組全体にわたる事業の進捗と政策課題の解決	
アジアヘッドクォーター特区 (東京都)	4.0	5.0  進捗度 ・外国企業と都内企業との引き合わせ件数 153%  ・金融系外国企業の誘致数 125%  ・その他の外国企業の誘致 106% 等	3.1  規制の特例等 ・ビジネスジェットの利用 手続簡略化 等  財政支援等 ・総合特区支援 利子補給金  地域独自の取組 ・アジアヘッドクォーター特区 拠点設立補助金  ・ビジネス コンシェルジュ 事業 等	4.0	<p>・東京という地理的なアドバンテージを活かして十分な進捗が得られている。</p> <p>・例年着実に実績を伸ばしてきているが、東京という場所の有利性に起因する印象が年々強くなっているような印象を持つ。ゆえに既に当初の目的を完遂しているようであれば、特区指定を再考する時期に来ているのかもしれない。</p> <p>・ビジネスコンシェルジュ制度等、ビジネスジェット利用等の規制緩和、財政、金融制度等の活用がコロナ下での進捗が停滞していることについて数字をもって説明いただきたい。</p> <p>・計画書においては、本プロジェクトの推進によって、地域経済の活性化、雇用拡大の可能性が言及されているが、この点に対する考察・検証も期待したい。</p>